



新版物理探査用語辞典

社団法人物理探査学会編, (株)愛智出版 発行
A5判, 279頁
2005年5月刊行, 価格6,720円(税込)
ISBN4-87256-410-3

次の言葉に共通するものはなんでしょう? IP, EM, 屈折, ジオ, 振幅, 走時, 電磁気, 波線, 反射, 比抵抗, フルウェーブ, レーダ. これらは, 「トモグラフィ」をつければ, 今般発売になった物理探査学会編, 愛智出版発行の新版物理探査用語辞典に収録されている用語となるものである(例えばジオ+トモグラフィ=ジオトモグラフィ).

物理探査学会は, 1948年に物理探査技術協会として発足し, 1980年に現在の名称となり, 2001年には社団法人として認可されている. その55周年記念事業として進められ, 編集に労を要してやや遅れたものの, ここに完成したのが本用語辞典である. 同学会には50周年事業出版物の「物理探査ハンドブック」, 40周年の「図解物理探査」, 30周年の「物理探査用語辞典」などがある. 特に50周年の物理探査ハンドブックは7分冊, 1,400余ページの大作であり, 物理探査という学問分野のまとまった教科書となっている. 今回の「用語辞典」は収録語数1,426語であるが, こちらは辞典として用語の定義, 説明を必ず記述しているのが強みであり, また1冊でハンディであるところが大変親しみ易い.

さて, 25年前の30周年の頃は, 私事であるが本紹介執筆者が丁度地質調査所に就職し, また物理探査学会に入会した直後である. まだ中型コンピュータが1MIPSの時代であった. その時の旧用語辞典と今回の新用語辞典を比較すると, この四半世紀の物理探査の技術の変化と進歩が読み取れる. 冒頭に示した「トモグラフィ」という用語は25年前には掲載されていない. それが今では10語以上に掲載される大きな技術となっている. このように, この25年間で新しく生まれ, あるいは大きく進歩して多数の関連用語が掲載されるようになった用語としては, AVO, VSP, 地球



統計学, 3次元物理探査, 地中レーダ, GIS, シミュレーション等多数ある. 今やよく使うインバージョンも旧辞典で強いて探せば逆境界値問題であり, これは用語の一般化であろう. 新辞典ではストキャスティックインバージョンや焼きなまし法も載っている.

測位や電波航法に関して, GPSは旧辞典では「1980年代の中頃運用に入ると予定されているが, 民間利用ができるか否かは明らかでない」と記され, 新辞典ではDGPSなど関連用語も掲載されるようになっている. 逆にロラン, デッカ, オメガ等は旧辞典では詳述されていたが, 新辞典では電波航法として概説となり, NNSSの解説の末尾には「その役割を終えた」とある. このように, 新しく広がる技術の一方, 旧式の技術となっていくものもある. アナログ映像処理, タイプカーブ等が無くなっている. ただし, 技術の変化以外に, 編集方針の違いもあり, 旧辞典では, 地質学, 鉱床学, 地熱関係の用語が結構含まれているので, 新辞典を手に入れたからといって旧辞典もなかなか手放すわけにはいかないと感じている.

本用語辞典は約80名の執筆者と20名以上の用語辞典委員の3年に渡る奮闘の末に完成したと聞く. 私は一学会員であるが作成には携わっておらず, その恩恵にあずかるばかりであるので, ここに本欄をお借りして皆様にご紹介し, 宣伝することによって恩を返したいと願う. ぜひご購入ください.

(地質資源環境研究部門 矢野雄策)